

# News Release

## 岩谷産業株式会社 広報部

東京本社 〒105-8458 東京都港区西新橋3-21-8 TEL. (03) 5405-5851  
大阪本社 〒541-0053 大阪市中央区本町3-6-4 TEL. (06) 7637-3468

2021年10月20日

### 一社「日本グリーンLPガス推進協議会」の立ち上げについて

岩谷産業株式会社（本社：大阪・東京、社長：間島寛、資本金：350億円）は、LPG輸入元売りの大手5社（アストモスエネルギー、ENEOSグループ、ジクシス、ジャパンガスエナジー、当社）で、一般社団法人「日本グリーンLPガス推進協議会」を今般新たに設立し、LPG（プロパン・ブタン）のグリーン化事業を共同して進めることとしました。

具体的には、水素と二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）を合成させ、メタノール等への改質プロセスを経たうえで、100%近い収率でLPGを製造する新たな技術（プロパネーション・ブタネーション）を北九州市立大学との連携によって確立します。FT（フィッシャー・トロプシュ）を始めとする従来の燃料合成技術では、CO<sub>2</sub>を一酸化炭素に置換する必要があり、非効率な面がありましたが、新技術ではCO<sub>2</sub>を直接水素と効率的に反応させ、高い得率でのLPG製造が可能となります。当協議会はこの分野で世界的な権威である北九州市立大学客員研究員の藤元薫氏（東京大学名誉教授、一般社団法人HiBD研究所代表、北九州市立大学名誉教授）から全面的な研究協力を得ることによって、早期の実証化を目指します。

また、当協議会では、LPGと類似した特性を有するDME（ジメチルエーテル）からLPGを製造する技術の確立に向け、上記研究と並行して、大手触媒メーカー等との共同研究開発を進めます。

当協議会では、ふたつの実証試験結果を3年後を目途に検証のうえ、双方の研究を通じて得られた技術を用いて下水処理汚泥施設から発生するバイオ原料等から得られた水素とCO<sub>2</sub>を利活用することによって、2030年前半には年間3万トン規模のカーボンフリーなLPG（グリーンLPG）の社会実装の実現を目指します。

LPGは一般家庭や業務用を始め、化学原料や自動車燃料、都市ガスの熱量調整原料など、幅広い用途で使われており、昨年度の国内需要は約1,300万トンに上ります。LPGは可搬性に優れ、劣化しない特性を有しており、災害対応力の強化に向けた備蓄用燃料としての他、LNGと同様、硫黄含有量が殆どないといった環境特性によって、船用燃料としての新たな需要も期待されており、燃焼機器の省エネ化や人口減が進むなかにあっても、政府の試算でも2050年時点で相当量の需要量が残ると見込まれています。LPGのグリーン化を巡っては、バイオ原料の利用だけでは資源に限界があるため、将来的にはグリーン水素等を利活用し、LPG需要全量のグリーン化を進めて行く考えです。

**Iwatani**

5社が会員となっている日本LPガス協会（会長、アストモスエネルギー社長、小笠原剛氏）では、昨年秋に「グリーンLPガスの生産技術開発に向けた研究会（座長：早稲田大学、関根泰教授）を立ち上げ、今年4月には、LPGのグリーン化に向けた今後の課題と方向性に関する報告書をまとめました。今回の協議会設立は、同研究会からの流れに沿ってグリーンLPGの社会実装に繋げて行くためのもので、初代の協議会代表理事には、同協会会長の小笠原氏が就任します。

当社は、LPガスのリーディングカンパニーとして、LPガス業界の脱炭素化に向けた取り組みを推進してまいります。